

2023年度環境報告書

 **倉敷化工株式会社**

ISO事務局発行

■ 環境方針	3
■ 環境管理体制	4
■ 2023年度 取組み結果	5-6
■ 2023年度 主な取組み内容	7
■ 全社廃棄物実績	8
■ 2023年度 マツダグループ削減活動結果	9
■ 廃棄物削減活動結果(全社)	10
■ 廃棄物削減活動結果(自動車部品事業部)	11
■ 廃棄物削減活動結果(産業機器事業部)	12
■ リサイクル達成状況	13
■ 計量システム導入による廃棄物削減意識付け	14
■ 3Rの取組み	15
■ CO ₂ 削減活動結果	16-17
■ 環境保全活動	
■ 環境法令順守対応	18
■ 環境影響評価	19
■ 環境パトロール	20-21
■ 環境汚染防止・緊急事態対応訓練	22
■ その他 地域貢献活動	23



【環境方針】

1. 資源及びエネルギーの有効活用

資源及びエネルギーの有効性を認識し、省エネルギー及び省資源を推進し、その有効利用に努めます。

2. 循環型社会構築への寄与

廃棄物の発生抑制、再利用、リサイクルに取り組み、循環型社会の構築に向け努力します。

3. 汚染の予防

環境汚染につながる緊急事態の未然防止活動に注力し、環境汚染を予防します。

4. 環境関連法規の順守

国内外の環境関連法規の順守及び、地域や自治体をはじめとする利害関係者との取決めや要求事項を順守します。

5. 環境に対する基本姿勢

全ての社員は、当社の行動指針に従い、環境保全活動に参画し、地球環境の保全に十分配慮すると共に、環境保全型事業を推進し、社会の環境負荷の低減に貢献します。

6. 自然環境への配慮

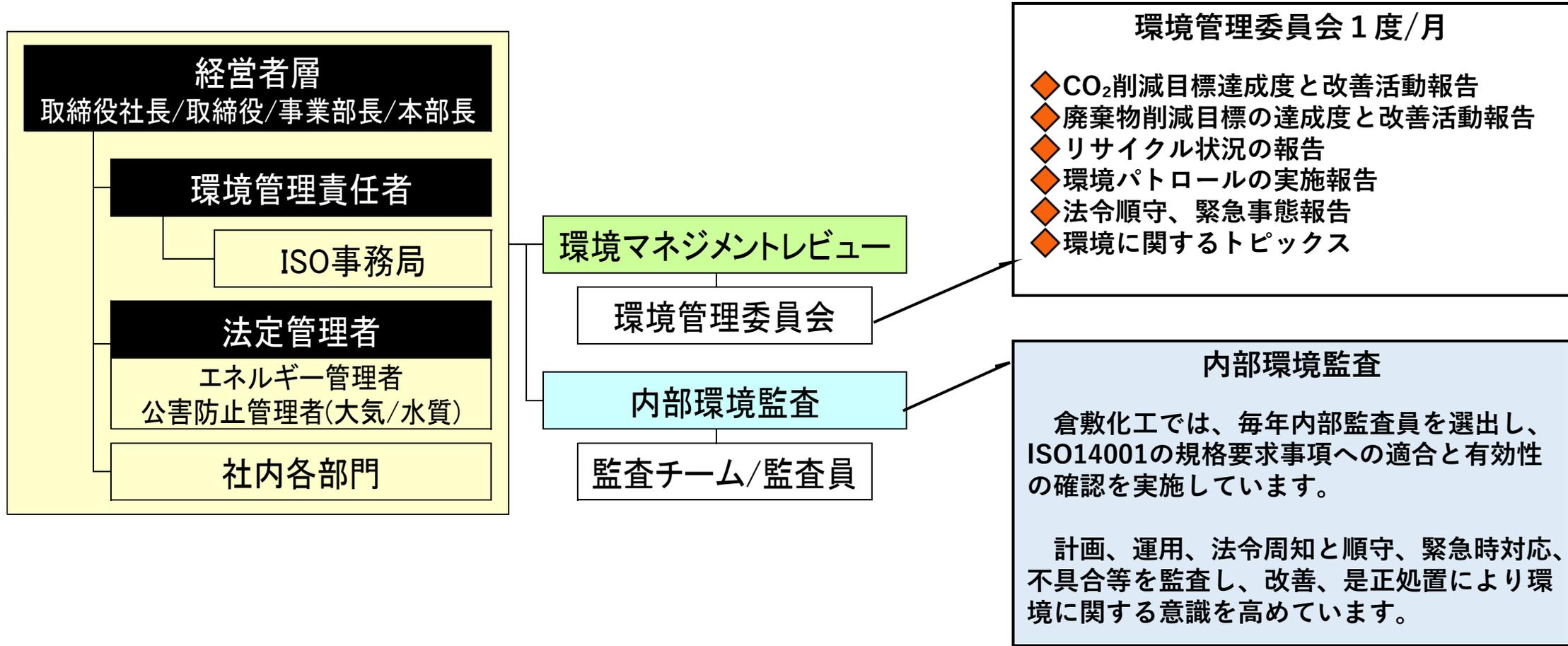
工場排水監視並びに廃棄物削減活動で、生物多様性及び自然生態系の環境保全に貢献します。

7. 環境方針の周知と開示

この環境方針は、倉敷化工株式会社で働くすべての人に周知すると共に、広く開示します。

【適用範囲】 本社工場/東京支店/大阪支店/仙台営業所/名古屋営業所/中・四国営業所/広島営業所/福岡営業所

倉敷化工では、環境ISO14001を2001年度より取得し、環境スローガンの下、省エネ、廃棄物削減、緊急事態未然防止等の環境負荷低減活動を実施しています





産業廃棄物・省エネルギー社内2023年度目標達成度

	項目	目標	削減活動実績	主な取組み	結果	効果
廃棄物	ゼロエミッション	総発生量の最終埋立量比 0.97%	埋立比率 0.45%	<ul style="list-style-type: none"> 社内リユース、リサイクルの促進。 リサイクルから有価物化の促進。 廃棄物<ゴミ>から資産へ<資源>として活用 埋立てにしない産廃処理の検討 環境負荷（埋立対象）の原材料の代替検討 	目標：156%達成 ・社内リユース化 ・分別による有価物化 ・削減取組み活動の効果 ・リサイクル会社と契約 ・埋立て対象材料の軽減、他	環境保全 循環型社会の構築 廃棄物削減
	4種廃棄物社内取組目標	930.21t以下 原単位 前年比2%減 2.51 t / 億円	833.23 t 2.44 t / 億円 倉庫撤去等突発廃棄を含めると840.9 t	生産計画による最適な生産体制の構築 他各部門の排出量の多い要因ごとの分析による削減対策の実施 ・生産性向上、工程内不良率低減、歩留まり向上、分別有価物化等各部署の取組み実施	目標：103.1%達成	廃棄物低減
	①廃プラスチック削減	801 t 以下 2.16 t / 億円	711t 2.07 t / 億円 計画外廃棄除外	不良率低減/歩留まり向上/有効期限切れゴムの削減等各部門削減アイテム	目標：104.2%達成	廃棄物低減
	②ゴム付着金属削減	9.0 t 以下 0.024 t / 億円	11.8 t 0.03 t / 億円	工程内不良率の低減、リサイクル意識向上、分別の徹底により、廃棄物削減と有価物化を進めた。片づけ等で排出量が増加しました	目標：58.5%未達	循環型社会の構築
	③排水処理汚泥削減	82.73以下 0.224 t / 億円	84.9 t 0.246 t / 億円	処理前の水の成分を把握し、過去からの蓄積データによる最適最小薬品投与にて増加防止、排水処理槽の掻き寄せ機清掃等で増加	目標：90%未達	廃棄物削減

2023年度取組みの結果



	項目	目標	削減活動実績	主な取組み	結果	効果
廃棄物	④廃油（水） ・廃溶剤削減	31.52t以下 0.085 t /億円 メンテナンス清掃除外	25.53 t (有価物含む) 0.074 t /億円 メンテナンス等除外 (設備清掃 6.7t)	生産設備の廃油の分別活動実施。 混合油の長寿化 (フィルター設置、更油時期延長) 接着剤塗布の歩留まり向上活動	社内削減取組み 原単位達成率 113%達成	循環型社会の構築 環境負荷物質低減
	リサイクル 推進	4種合計リサイクル率 75%以上	リサイクル率90.3%	分別による有価物化、社内リユース、リ デュース活動、リサイクル可能な引取り 会社にて受入れ開始効果、岡山事業団の 残渣再処理による残渣なしの取組効果	取組みにより 大きく目標達成	循環型社会の構築
省エネルギー	CO ₂ 削減 社内取組目標	11,308 t 以下 30.56 t /億円 (SCOPE-2 固定) 売上原単位	10,073 t 29.37t/億円 ※2020年度 電力CO ₂ 排出係数 0.000561継続	2023年度の各部門省エネロードマップの 実行。エネルギーの合理化、生産性向上、 効率化など毎月エネルギー削減量を集計 し、CO ₂ 削減量、コスト改善等、全社お よび各グループ達成率を算出しています	自社努力により 104%達成	エネルギー 枯渇防止 地球温暖化防止
		9,955 t 以下 26.91t/億円 (SCOPE-2 変動型) 電力会社の係数 改善を見込む	9,558.2t 27.87 t /億円 (0.000537)	社内の工務部門、技術部門による エリア担当者にて月初の各動力、キュー ビクル等メーター検針にて、省エネアイ テム実施による削減効果を実績と共に 購入電力排出係数にて換算 最終的に達成度を確認	電力購入先の 改善を含め ると、未達とな りました。	
	(参考) CO ₂ 削減 岡山県への報告	練ゴム使用量 原単位 基準年2022年度 2.13 t / t 5年間で 5 %減	2023年度 令和5年実績 3.22 t / t	①省エネ機器の導入②放熱ロスの削減 ③換気扇の最適運転の実施④生産性向上 ⑤事務所でのエアコン設定ルール等全社 で取組み等の実施。	対基準年 2.13%減 達成	



環境保全活動、環境法規制、予防処置

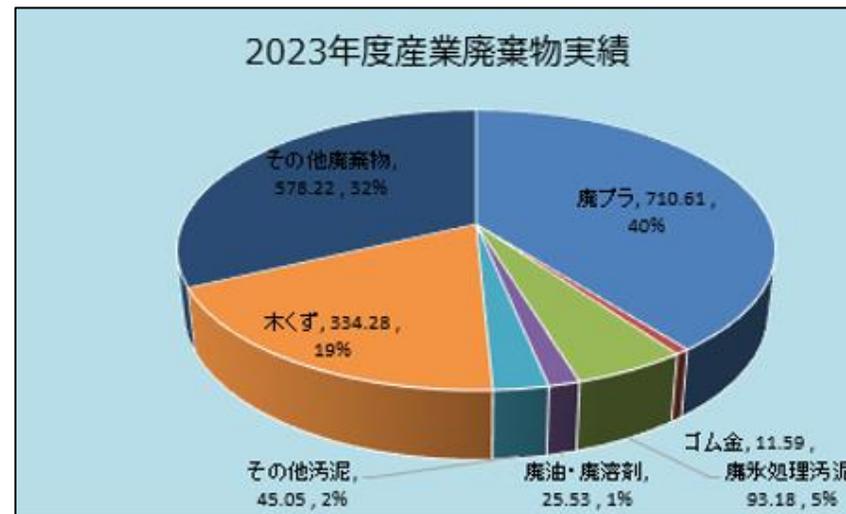
	項目	取組の内容	今後の取組
環境負荷低減	製品開発、設計	<ul style="list-style-type: none"> 生産、使用及び処分における環境影響を最小にするように設計 新規開発品が与える著しい環境影響の最小化 シミュレーションによるデータ解析技術の向上を図り、テスト品の試作回数の低減実施 	継続
	原材料環境影響	<ul style="list-style-type: none"> 原材料レベルの環境影響の最小化 環境負荷物質の低減 製品の耐久性、信頼性向上のための技術開発の推進 	継続
環境法規制	関連法規類	<ul style="list-style-type: none"> 全社の環境法令順守状況の確認（原則半期/1度） 新規および改正環境法令を随時調査し、関連部門へ展開し実施 新規および改正環境法令の対応 	継続
予防処置	環境影響評価	<ul style="list-style-type: none"> 2月環境影響評価教育 定期評価および不定期評価の実施 	継続
	環境パトロール	<ul style="list-style-type: none"> 環境事故を未然に防ぐため、期初計画通り工場内のパトロール毎月実施 社外の油漏れ流出未然防止の為、社内の工場、敷地内の柵の点検・清掃と、敷地に隣接する用水路の見回りを実施しています。 	継続
	緊急事態対応訓練	<ul style="list-style-type: none"> 著しい環境側面の抽出内容により、部署毎にテーマを決め、1回/年実施 	継続

産業廃棄物2023年度結果

■総発生量（廃棄物および有価物）

項目	重量	備考
◆産業廃棄物	840.9 t	①廃プラスチック②ゴム付着金属 ③廃油・廃溶剤④排水処理汚泥
	340.7 t	その他木くず、その他汚泥など産廃
	1,181.64 t	産業廃棄物合計（右図参照）
◆事業系一般廃棄物	75.66t	産業廃棄物以外
◆有価物	541.16 t	金属スクラップ、廃油（一部） 段ボール、雑紙類など
総合計	1798.46 t	産廃、事業系一般廃棄物、有価物

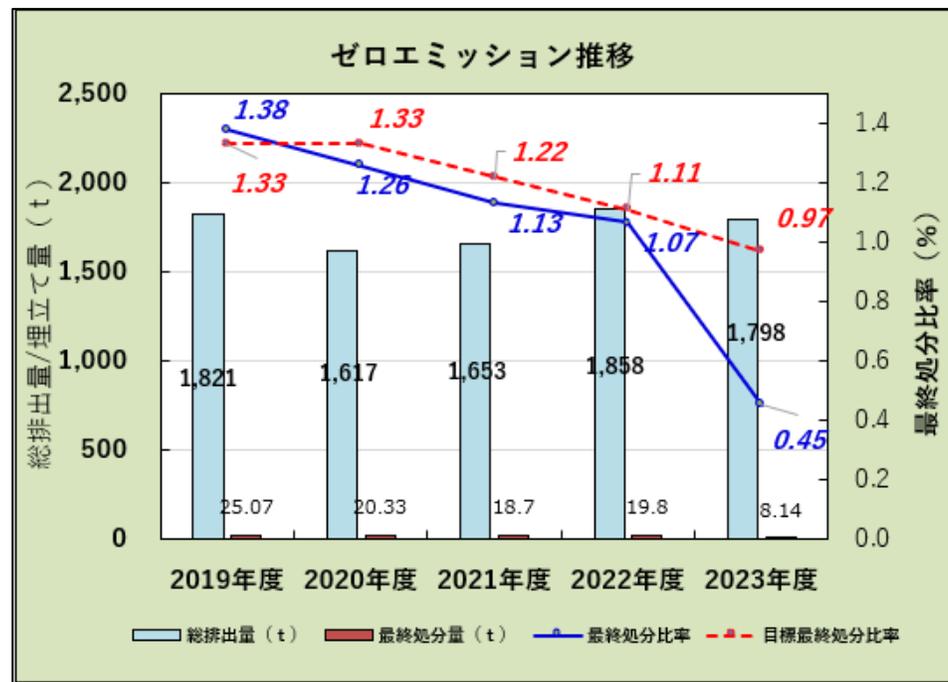
■産業廃棄物の内訳



■倉敷化工から排出される2023年度の産業廃棄物、事業系一般廃棄物および有価物の総発生量は、1,798.46tとなりました。そのうち、産業廃棄物実績は1,181.64 tとなりました。

■全社削減目標は、主に製造および開発過程で排出されるもの、調達品、出荷時に排出される物流関連梱包資材(木箱、パレット、ビニール類)等の①廃プラ②ゴム付着金属③排水処理汚泥④廃油・廃溶剤の4種類について売上原単位で2%減を設定しています。それぞれの廃棄物について排出要因を分析し、削減効果のある取組みを全社で行っています。また、紙の削減についても、全社で取組みをしています。

■倉敷化工では、全社目標および各部門目標を期初に設定し、削減の試作、計画を立てて全社目標の達成度の進捗状況、各部門の達成状況のほか、改善活動、課題等を環境管理委員会で報告しています。また、マツダグループの廃棄物削減活動として、一般廃棄物および有価物も含めた社外へ排出されたすべての物を削減するゼロエミッション活動も行っており、定期的に一堂に会し、目標到達度、活動状況、改善事例の報告も行っています。



■倉敷化工では、マツダグループの廃棄物削減活動として、有価物を含めた全事業所から排出された総量に対し、最終埋立て削減の取組を実施しています。

目標達成度は、埋立て割合0.97に対し、0.45と半減以下と大きく改善しました。

- ①残渣埋立て：岡山県事業団の「炉の更新」により、埋立て残渣を再処理することにより、路盤材等にリサイクル化
- ②直接埋め立ての廃カーボンについて、路盤材等にリサイクル化

■2019年度以降の推移では、約3分の1に改善され、来期以降は更に改善効果があると見込んでいます。

- ①紙ごみの削減（イントラネットのワークフロー化の推進によるペーパーレス）
- ②木くず削減（事業部間での木パレットのリユース化）
- ③ゴム付着金属などの各種混合廃棄物の分別徹底による有価物化の全社展開推進による実施
- ④廃棄物の分析により、リサイクル技術の進んだ産業廃棄物処理業者の委託を検討、契約も効果を上げています。

全社4種廃棄物排出量

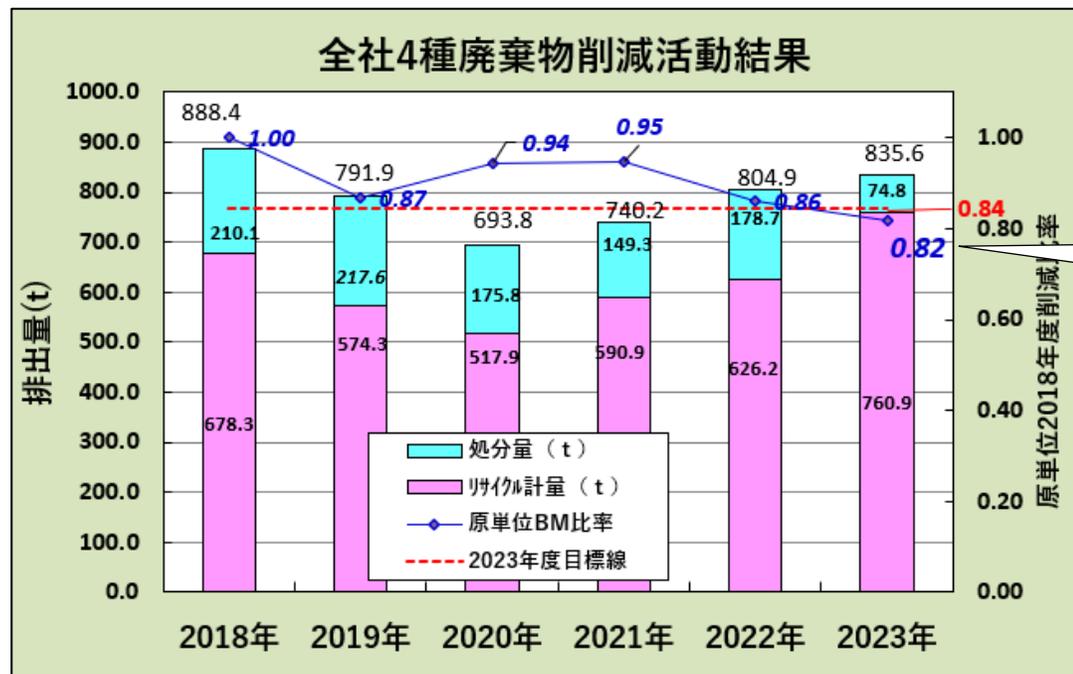
廃棄物集計時の定義

①排出量：社内計量値および重量物等一部
マニフェスト含む

②リサイクル量：マニフェスト(社内計量値)
KKCでは、焼却時の廃熱利用に当たる
サーマルリサイクルは処分としています。

③処分量：焼却前の廃棄物計量値

4種類廃棄物：
廃プラ・ゴム金・排水処理汚泥・廃油水



目標0.84
実績0.82
前年比4%減

※社内計量実施によるリサイクル量の為、全社実績と差異あり

■廃棄物削減活動：

弊社の廃棄物は廃プラとして「未加硫ゴム、樹脂、加硫ゴム、廃カーボン、段替え時のゴム、製品出荷等の梱包関係、緩衝材ビニール類」が最も多く発生します。

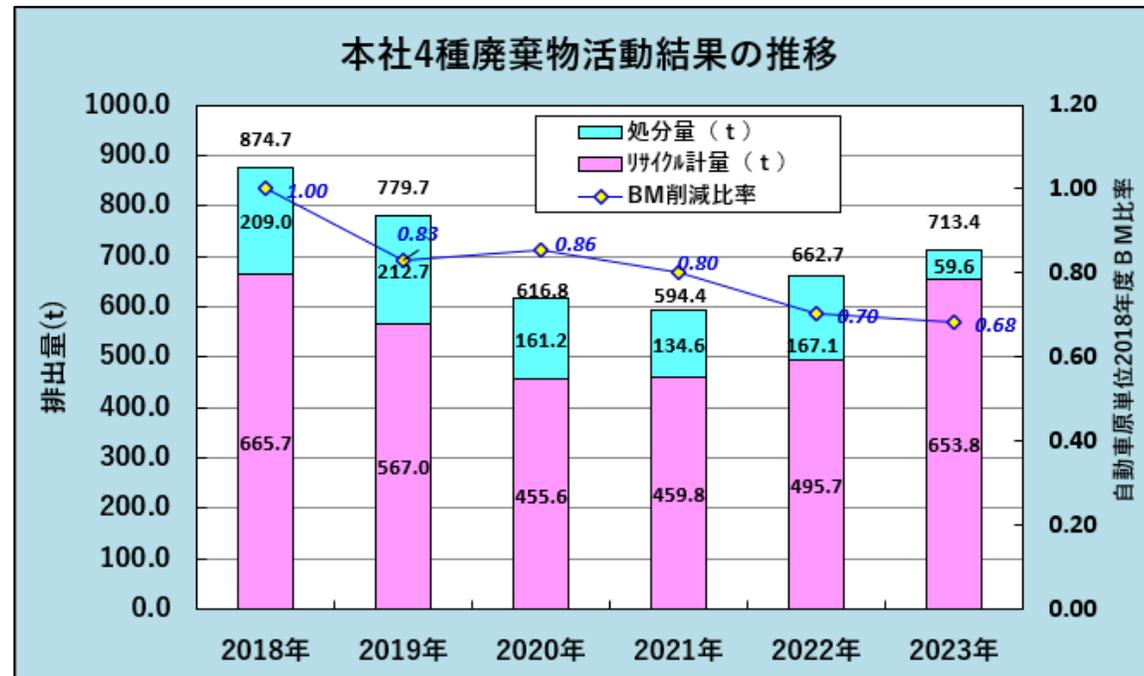
また、ゴムは有効期限があり、無駄なく使い切ることを目標とし、削減活動を実施しています。

■2023年度は、2022年度比では、生産量増加に伴い生産工程で排出される廃棄物が増加していますが、原単位ベンチマーク比率では、前年よりも4%減と大きく低減できました。

また、リサイクル量が大きく改善しているのは、岡山事業団の焼却炉の更新により、残渣の再処理施設が10月より稼働し、残渣埋立てがリサイクルにより、路盤材などに再資源化されるためです。

本社（自動車部品事業部）

※排出量：社内計量
 リサイクル量：マニフェストと計量値
 による算出
 4種類廃棄物：廃プラ・ゴム金・排水
 処理汚泥・廃油水

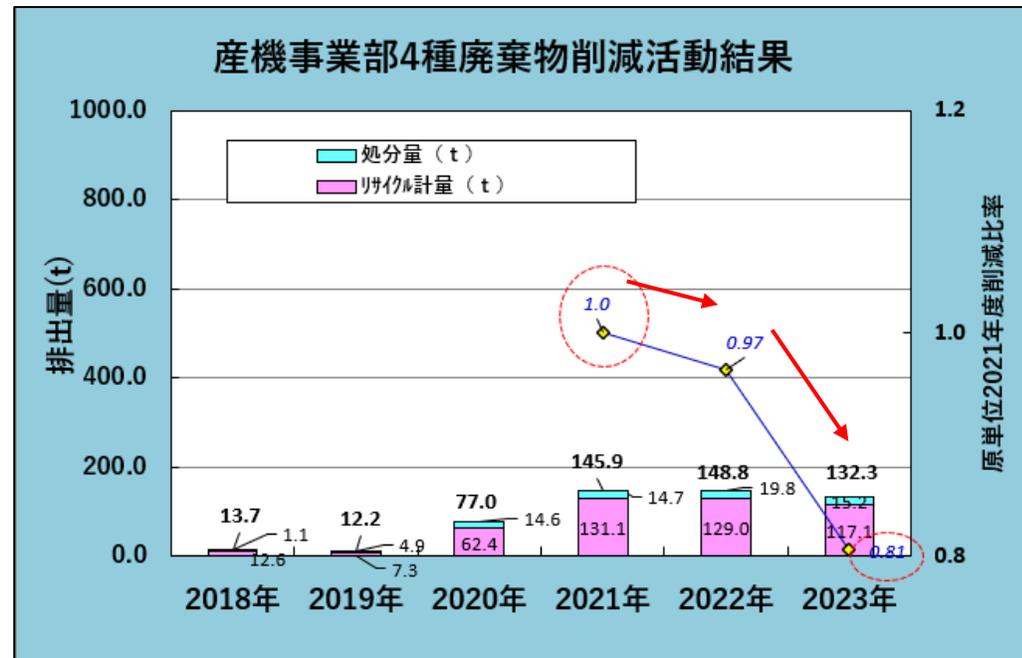


※社内計量実施によるリサイクル量の為、全社実績と差異あり

■自動車部品事業部では、不良低減活動、歩留まり向上活動の他、環境影響を考慮した製品開発・設計時の環境負荷物質の低減を目的とし、強度・耐久性を維持しての除肉による部品軽量化、ゴムから樹脂への転換等の車体の軽量化の取り組みを行っています。物流については、梱包用緩衝材の再利用、樹脂パレットの有価物化、再資源化等、改善できました。また、従来は焼却後残渣（焼却灰）を埋立て処理をしていたため、リサイクル化ができませんでしたが、10月より、残渣処理により再資源化になりました。また、廃プラスチックに該当するカーボン類の処分についてもリサイクル可能なメーカー様へ再資源材として、使用して頂けることになり、目標原単位2%減に対し、売上原単位についても達成しました。

産業機器事業部

※排出量：社内計量
 リサイクル量：マニフェストと計量値
 による算出
 4種類廃棄物：廃プラ・ゴム金・排水
 処理汚泥・廃油水



※社内計量実施によるリサイクル量の為、全社実績との差異あり

- 産業機器事業部の4種廃棄物では、2023年度は全社廃棄物の約16%に相当します。

2019年度から2021年度にかけて排出量が増加しているのは、物流関係の組織変更に伴うもの。また、関連会社先での廃棄委託処分から倉敷化工へと処分方法を変更しマニフェストを計上したことによるものです。

その為、2021年度の変化点を新たなベンチマークとして、監視をすると原単位が改善されていることが分かります。
- 削減取組みとしては、排出量の増加要因である不良低減、歩留まり向上活動を継続的に実施し削減に努めています。

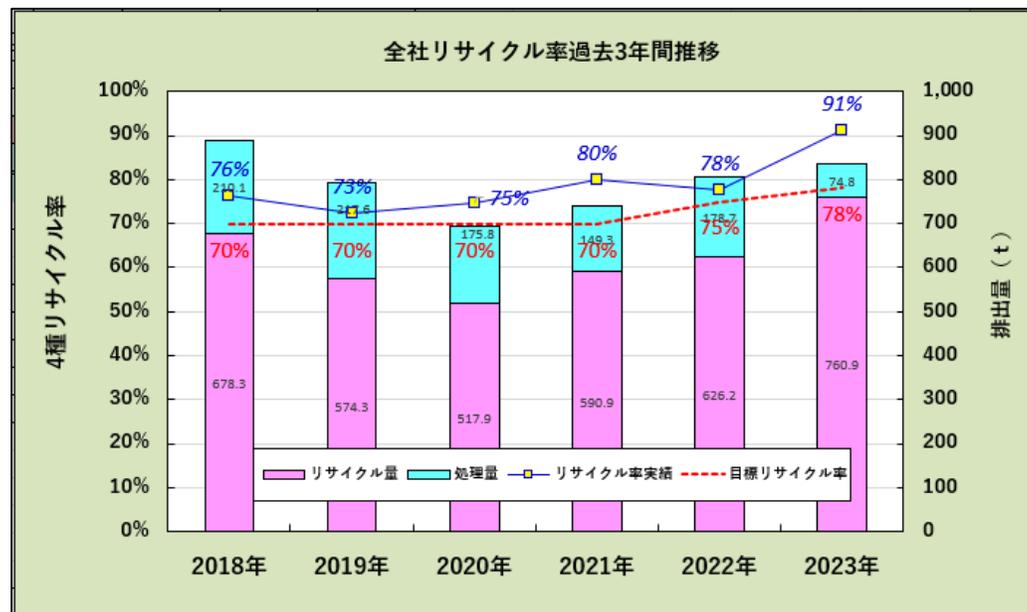
また、分別活動を徹底することで、資産価値を意識し、再資源化「有価物化、再資源化」も年々定着し、特にゴム付着金属削減において全社的にも大きく寄与しました。

開発時での削減活動では、モデルの解析等を行い最適設計の実施による試作品不良低減等の削減活動や振動衝撃マウントの裁断方法の改善などを実施し、排出量の低減となりました。

関連会社の廃棄物増加を抑制、低減する為担当者が現地に赴き課題に対する削減取組みを実施しています。

更に自動車で実施されている「変化点管理」を現地で取り入れて廃棄物削減効果を上げております。

リサイクル達成率推移



※リサイクル率(%)：マニフェストによるリサイクル実績
(社内計量値と差異あり)

■倉敷化工では、SDGs（12.作る責任、使う責任） 4種のリサイクル目標：78%（焼却に伴うサマルリサイクルについては、残渣を含める）
2023年度のリサイクル活動では、前年の実績に合わせ78%とし、結果として91%と大きく達成いたしました。

焼却処分については、焼却後残渣を含めて計上しています。（固形分は排出量の約10%焼却灰埋立て）

「棄てたら産廃、生かせば資源」という棄てない取組み、3Rの重要性を再認識し、焼却により発生する焼却灰埋立て量の削減、またカーボンニュートラルを意識しCO₂排出量削減にも考慮した活動を実施しています。

■改善事例：自動車部品製造工場内では、各班ごとに有価物のサンプル展示を行うことで廃棄容器に分別が効率よく実施されるようになり廃棄物を減らすことができました。

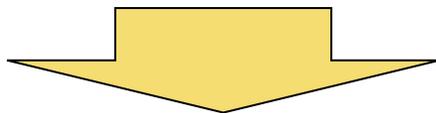
また、廃油・廃溶剤においても、有価物売却の取組みを全社へ展開し、分別の徹底の取組を行いました。

廃プラでは、助燃剤としてのサマルリサイクル、路盤改良剤としてのマテリアルリサイクルなど行っています。

梱包関連のビニール類では、溶融処理による再資源化処分を増やして対応をしています。

廃棄物排出についての社員教育

KKCでは、廃棄物を排出するにあたり、産廃の分類、分別方法、計量方法及び置き場でのルールなど定めた教育を受けた者以外は廃棄できないような管理体制を敷いています。



計量システムを活用した排出量の把握

社内で設置されている秤量システムを使用し、全部署から排出される産廃（1 t 以内）を担当者が計量しています。

計量する際には、日時、部署、種類、重量の他、どのような種類の廃棄物をなぜ捨てたのかを選択することで、1ヶ月ごとの廃棄物を集計することが出来ます。

これにより、部門ごとの削減対策の効果、分析などに役立てています。



環境管理委員会の様子



秤量システム



社内教育内容より抜粋
※捨てることが適切か判断すること
※リサイクル処分できるように分別すること
※より良い廃棄のための努力をしましたか？

日時	廃棄部門
廃棄物種類、重量	
製品種別	廃棄理由

●削減・再利用（リデュース・リユース）

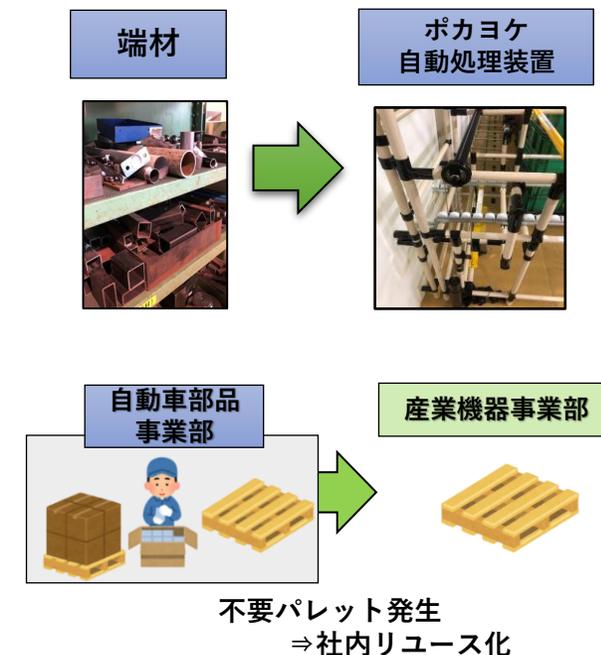
○リデュース取組み事例：物流関連では、樹脂通い箱、緩衝材などリターナブル化し、梱包関連の廃棄物を削減しています。

また、トラックでの輸送時の積載率を上げるよう監視し、積載時の配置と重ね方をルール化し、使用パレットの削減しています。

○リユース取組事例：

自動車製造部では、不要部品、端材などを資源として再利用し、様々な自動装置を製作し、作業時間短縮やポカヨケに活用しています。豊富なアイデアと資源の再利用でムリ・ムダ・ムラを無くす効率化を図り、廃棄物削減と共に業務改善活動も活発に行っています。

自動車部品事業部では、海外拠点からの輸入部品に使用するパレットを国内で開梱し詰め替え作業を実施しています。その後不要になった使用可能なパレットを産業機器事業部へリユースとして再利用することで、廃棄物の削減を行っています。



●リサイクル

- 排水処理汚泥は、2018年度よりバーク堆肥の原料として全量リサイクルしています。
- 廃プラの一部は、助燃剤や路盤改良剤等のサーマルリサイクル、原料リサイクルをしています。
- 製品保護用、コンタミ防止など梱包用ビニールは溶融による再資源化しています。
- 使えなくなったポリ容器、緩衝材を樹脂パレットに再資源化（生産管理部 有価物化取組み）



破損、劣化のポリ容器や緩衝材を樹脂パレットへ再生（有価物化）

●紙類削減取組み事例

社内では、紙類の削減の為、ペーパーレス化を進めています。

- ①会議、打合せ等での配布を無くし、PC活用と資料共有化での活用
- ②残業申請他、出勤簿等各種申請書類のワークフロー化

○グリーン購入：社内のコピー用紙は、FSC認証を購入し、森林保全を間接的に応援しています。





◆ 2023年度
岡山県温暖化対策CO₂削減結果



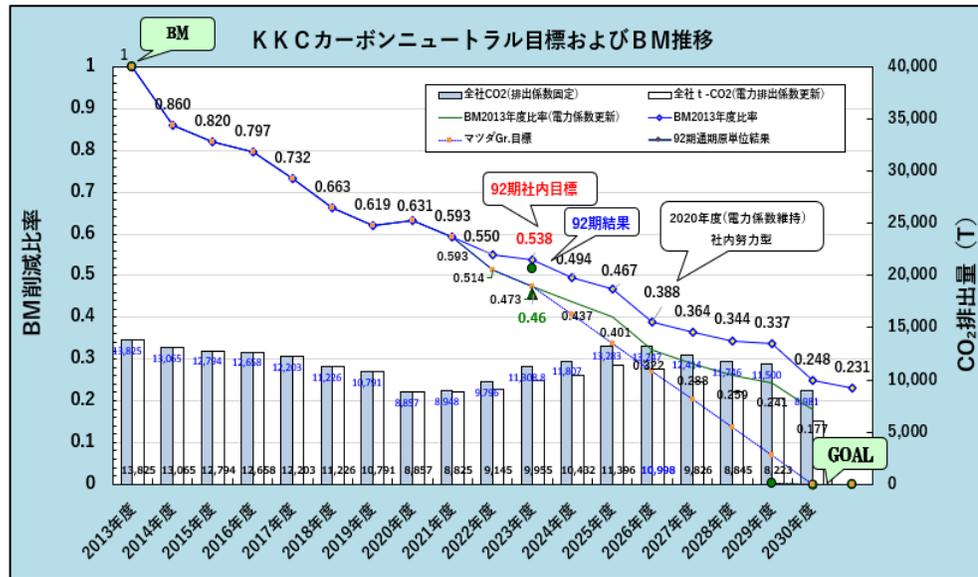
※岡山県への定期報告は、支店営業所は県外の為含まれていません。

■CO₂排出量では、第1種エネルギー管理工場と第2種エネルギー管理工場があり、省エネ法に基づきエネルギー管理統括者エネルギー管理企画推進者、エネルギー管理士を置き、中長期計画書と共に毎年定期報告を行っています。

上のグラフは岡山県への定期報告結果で、原単位はゴム練重量としています。

2023年度は、下期以降2020,2021年度のコロナの大きな影響から生産量等回復し、生産量も前年比でも増加した為、排出量は多くなりました。

岡山県への報告書では、ゴム製品製造業（自動車、産業機器）として、原単位をゴム練量として報告していますが、社内目標の売上原単位と連動しており、2030年までの省エネロードマップを各部門が作成し、省エネ活動を活発に行った効果および電力購入先のCO₂排出係数の改善により、2022年度よりも改善ができました。



社内目標および結果

■倉敷化工は、2030年度までにカーボンニュートラルを目指しています。2023年度目標は、前年売上原単位実績より2023年度省エネロードマップ（全部門抽出削減アイテム）の計画より削減量を設定しています。

■社内目標：SCOPE2（電力会社の改善取組み）の影響を受けない自社努力目標を設定し、原単位30.56 t /億円（前年1.2%減）を目指した結果、29.37 t /億円と達成しました。

原単位では国内目標2013年度ベンチマークとして2030年度までに目標46%減に対し2023年度で原単位51%削減ができました。
絶対量実績 B M13,825 t から、9,558 t と約30%削減できました。

＜削減活動内容＞

■2030年度迄のカーボンニュートラルを目指した長期ロードマップの策定（全部門による省エネアイテムの抽出）

■2023年度（ロードマップの実施と省エネ、節電活動）

- 省エネ機器の導入：①動力トランスの更新②蒸気配管、バルブへの保温③ボイラーの缶体保温④高効率型の動力トランスに一部更新⑤全般照明LED化（2022年度残り）⑥フォークリフトEV化等
- 製造時における省エネ活動：生産性向上、不良低減、加硫時間短縮等の省エネ活動
- 事務所の空調管理の節電：夏場のエアコンの固定化（気候変動適応法岡山県推奨設定温度を基本）、サーキュレーター等効率化

環境法令順守対応

■新規法令、改正法、法令以外の世界基準ルール等の対応

法改正情報を漏らさない為、外部機関の環境関連法の制定・改廃情報提供サービスの利用、官公庁HP更新情報などから得た法規制に関わるものを基に法令担当部門から関連部門へ情報展開しています。

それらの情報について適用の有無を確認する為に毎月関係者と会議を実施しています。
倉敷化工関連会社または海外拠点に該当する規制等についても公布、施行前に展開しています。

■法令順守確認

大気汚染防止法、瀬戸法（水濁法）、悪臭防止法、振動・騒音、消防法、低濃度PCB、改正フロン排出抑制法等の環境各法令の他、労安法（環境関連）、製品含有特定有害物質規制類について一覧表にまとめ、定期的に責任者や担当者に展開し、順法確認を行っています。

また、環境法令に該当する各設備、各工程、看板、人、など順守すべき安全、災害防止が適切に実施されていることの確認する為、毎月環境および安全パトロールを実施し、課題や問題点など確認し、より良い改善活動を行っています。

■その他：廃棄物取引業者の監査実施

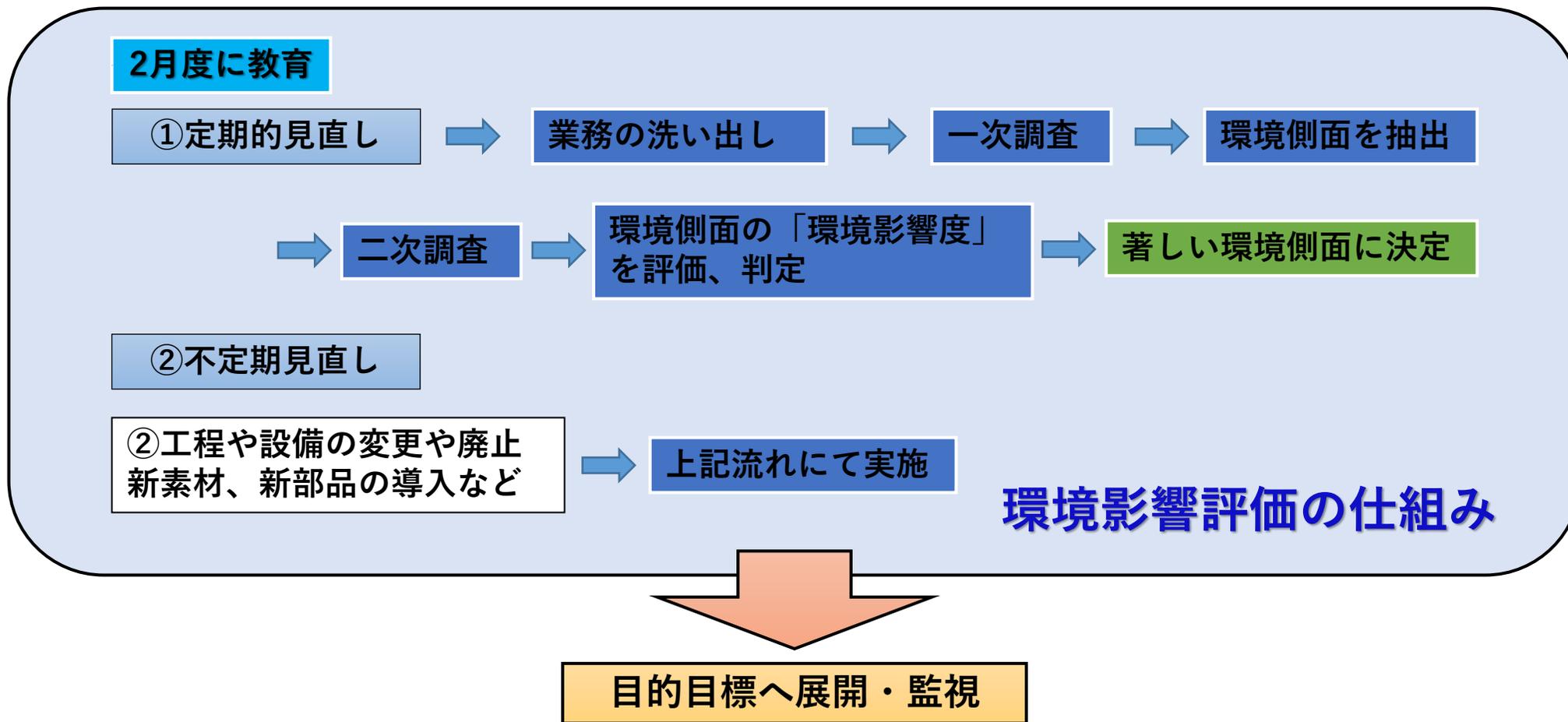
廃掃法の努力義務である「自社の排出した廃棄物が適正に処分されていることを確認」する為、倉敷化工では、定期的に現地の契約処分業者様へ赴いて、「取引業者認定評価表」を基に、確認、評価を行っています。

＜廃掃法努力義務＞廃棄物処理法第12条第7項
事業者は、産業廃棄物の最終処分が終了するまでの一連の処理が適正に行われるために必要な措置を講ずるよう努めなければならない。
・看板の表示内容・マニフェストの管理状況・保管状態の現地確認の実施等



環境影響評価

環境影響評価については、毎年、2月に教育を行い定期見直しを実施しています
また、工程、設備変更など必要に応じ、不定期見直しを実施しています



環境パトロール

環境パトロールの実施：法規制順守等に対応した社内規定事項への適合状況や緊急事態リスクの軽減措置、漏洩防止対策等が適切に行われていることを確認する為に、専門的な知識のある確認者と共にグループに分けて毎月エリアを決めて環境パトロールを行っています。

①Plan

◎パトロール構成メンバー

- ・ISO事務局主管・総務（安全）
- ・技術部門（設備関係）・材料部門（薬品類関係）
- ・工務（インフラ設備、保全関係工務課他）
- ・パトロール実施エリア責任者、担当者

◎ 1年間のパトロール場所の選定

◎ 「実施内容」「実施項目」の選定と前年度の有効性の確認

◎ 責任者の選出

◎ 「テーマ」の決定

前年度の傾向分析結果、緊急事態、危険物、法令順守など

◎実施者らの指摘をリスク評価（3段階）、傾向、その他チェックシートの準備

Aグループ：生産設備、試験機等の設備周辺機器を確認

Bグループ：薬品類等の管理状況を確認

Cグループ：インフラ、柵、廃棄物等の確認、5S、予防処置なども確認

●パトロールの準備：チェックシート、MAP

各環境法令順法確認
インフラ設備
配管、水、蒸気
生産設備等の不備の有無
産業廃棄物置場（廃掃法）
省エネ効率対応

7/7毎の状況に
合わせたチェックシートを
作成

各工場、
エリア
MAP

②Do 2023年度 毎月環境パトロール実施

③Check

◎チェック方法

法令順守評価と課題の抽出

- ・法令関係、日常点検、法定点検、保全・表示掲示物等
- 環境に関わる業務のリスクを含めて、チェックリストの使用にて漏れなくチェック！
- ・前回の改善が継続維持されていることをチェック！

確認事例



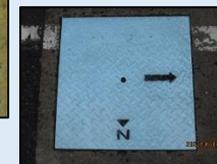
- 制御盤の災害予防管理
- ・不要物がないこと
 - ・埃等がないこと
 - ・緊急時の開閉ができること
 - ＜扉前障害物の✓＞



- 危険物倉庫の確認
- 主に消防法に該当する順守状況確認
- ・危険物の保管状況
 - ・入出庫記録
 - ・建屋、桟、設備の劣化等確認
 - ・緊急事態対応

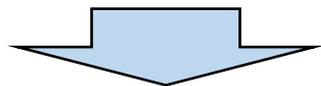


- 化学物質、薬品類の取り扱い確認
- ・SDSマーク、GHSマーク、薬品類の表示等
 - ・作業主任者等
 - 看板、注意書き掲示の位置



- 会社の緊急事態対策ルール
- ・工場内、敷地内での柵の種類（色）が分かること
 - ・東西南北が分かること
 - ・流路方向の矢印の塗装が消えていないこと

④Action 担当部門、責任者、担当者は、関係者と課題、要因分析実施し、再発防止になる有効な改善を行います。



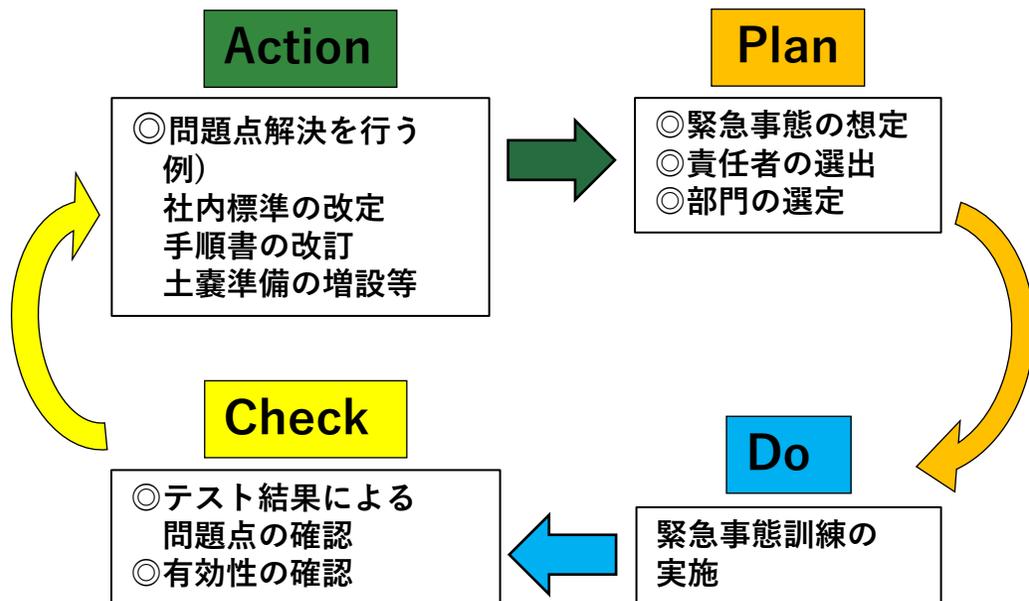
⑤改善後現場で再度チェック

⑥水平展開

環境パトロールを実施することにより、課題、改善内容に関連があるエリアへ水平展開を実施確認。倉敷化工として更に環境事故ゼロに向けて一丸となって継続改善を行っています。

環境汚染防止・緊急事態対応訓練

環境事故、緊急事態の発生時に備え、適切で素早く対応を可能にする又は未然に防ぐ目的で、各部門の環境影響評価などによる抽出にて、想定した内容のもと、手順書にて毎年緊急事態対応訓練を実施しています。



緊急事態対応訓練事例

想定内容：排水処理装置電気系統の故障によりポンプが止まり原水槽がオーバーフローして出口より流れ出た。

実施方法：緊急事態を想定した手順書の作成により実施。

- ・代用として水使用による敷地外排水溝までの到達時間測定
- ・準備した土嚢でせき止められるかの確認
- ・土嚢の積み上げによる確実な外部流出の未然防止

その他：緊急時に使用する・土嚢袋の劣化の有無、土嚢数の確認等

結果：土嚢の積み上げで防げることを確認した。
更に緊急対応用土嚢を増やし、確実に止めるように改善した。

訓練の様子



※当社は、工場・構内からの排水を、総合排水へ集め、管理システムにより、検査機器による水質基準を満たしている水を放流しています。
天災、地震や工事などによる災害などを含め、桧、配管等の損傷など、万が一に備え、いち早く被害を最小限にとどめる訓練も実施しています。

その他 地域貢献活動



岡山県エコ事業所の認定

廃棄物の排出抑制と循環的利用に率先した取組みが、
自動車部品事業所、産業機器事業所が先進的、かつ、優秀と岡山県で認められました



節電取組み

昼休み(食後20分間)のタイマー
offによる消灯節電を実施して
います。



Cool Bizの推進

・夏場の空調によるCO₂・電力削減取組の一
環として、クールビズを実施しています。



ライトダウンキャンペーンへの参加

7月7日のクールアース・デーは、
みんなが地球を想う日です。

・毎年環境省主催のライトダウンを
マツダグループ活動として全社員へ
呼びかけ、7月に実施しました。

◆環境保全活動、 地域貢献活動



森を守る、木を育てる
和歌山県熊野の山々に囲まれた伐採跡地にて森林破
壊等による豪雨災害を止める目的でソマノベース様
の研修とどんぐりの苗の植林体験をいたしました。



全社員廃棄物削減活動

- ・割りばしを使わない「マイ箸」運動
- ・事務所内ゴミ箱の削減
- ・持参品（菓子袋弁当空容器）の持ち帰り



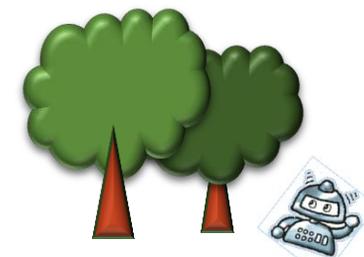
地域社会貢献活動

- ◆会社周辺の美化活動
- ・毎年開催される地域主催の
河川清掃活動への参加
- ・会社周辺の美化活動
- ・用水路の見回り実施





倉敷化工株式会社



★イラスト使用について：「削減活動：3Rの取組み」
イラスト出典元「いらすとや」(<https://www.irasutoya.com/>)